

昭和61年度地質調査所の出版物

資 料 室

PUBLICATION OFFICE & LIBRARY

- ・ 1 : 1,000,000日本地質図 (アトラス版)
- ・ 1 : 200,000地質図幅
福江及び富江 仙台 東京 豊橋 (2版3刷)
- ・ 1 : 50,000地質図幅
- ・ 地域地質研究報告 (5万分の1図幅)
妻及び高鍋 (鹿児島—68・69)
清川 (秋田—65) 津東部 (京都—55)
寄磯 (秋田—91) 陸中大野 (青森—49)
新島 (八丈島—1) 師崎 (京都—56)
- ・ 日本水理地質図
No. 38 静岡県安倍川下流域水理地質図
- ・ 特殊地質図
No. 25 Hot Spring Distribution Map of Northern Thailand
No. 26 伊豆大島火山1986年の噴火
- ・ 活構造図 (1/50万)
旭川 網走
- ・ 海洋地質図
No. 29 土佐湾海底地質図 (説明書つき)
No. 30 西津軽盆地海底地質図 (“)
- ・ 地質図索引図
第5集
- ・ 油田・ガス田図
No. 12 沖縄本島中一南部
- ・ 地質図目録図
1987年版
- ・ 地質調査所年報
昭和60年度
- ・ 物理探査・調査研究一覽
第29輯
- ・ CCOP Technical Bulletin
Vol. 18 The Permian of Southeast Asia
- ・ 地質文献目録
1977年 1978年
- ・ 日本地質文献目録
1986年
- ・ Cruise Report
No. 21 MARINE GEOLOGY, GEOPHYSICS, AND MANGANESE NODULES AROUND DEEPSEA HILLS IN THE CENTRAL PACIFIC BASIN
- ・ 地質調査所報告
第266号 仙岩地熱地域における研究
- ・ 地質調査所月報 第37巻 第5号
海外地質・鉱物資源特集号 (II) —中国南部における火山岩・深成岩に伴う鉱物資源の研究—
Shunso ISHIIHARA, Wenda LI, Akira SASAKI, Ken SHIBATA, Yukihiko MATUHISA and Shigeru TERASHIMA: Characteristics of Cretaceous magmatism and related mineralization of the Ningwu Basin, Lower Yangtze area, eastern China
- Terumasa NAKAJIMA and Kuiyuan TAO: Geology of carbonate-hosted lead-zinc deposits at Qixiashan, Jiangsu province, southeast China
- Kohei SATO, Ruoshui NI, Fuwei CHAO and Wenda LI: Compositional variation of sphalerites from Cu and Pb-Zn deposits in the Lower Yangtze area, eastern China
- Ryoichi KOUUDA and Ruoshui NI: Wubu deposit, a representative lead-zinc mineralization associated with Mesozoic volcanic rocks in China
- Yukihiko MATUHISA, Yuichi MORISHITA and Zhi Yuan ZHANG: Carbon and oxygen isotope analyses of Chinese carbonate reference samples
- 地質調査所研究資料集 No. 12, 13, 14, 15, 16, 17
- ・ 地質調査所月報 第37巻 第6号
横倉隆伸・加野直巳・渡辺史郎・山口和雄: 浅層放射法探査による伊豆半島, 姫の湯地域の地下地質構造
加野直巳・渡辺史郎・角田晴信・和田洋明・坪田浩二・則竹和光: 月吉ウラン鉱床における浅層放射法の適用性
脇田浩二・磯見 博: 岐阜県坂本峠地域における三疊紀・ジュラ紀放射散化石の産出とその意義
阿部喜久男・寺島 滋: 連続水素化物生成原子吸光法による温泉水・熱水中のひ素の定量

- 講演要旨(第173回研究発表会 特集 最近の珪酸塩分析技術と標準試料)
 地質調査所研究資料集 No. 18, 19
 地質調査所海外研究資料集 No. 29, 30
 ・地質調査所月報 第37巻 第7号
 土谷信之: 秋田県中部における中新世中期塩基性岩の海底火成活動
 Yuji ENDO, Yasuo KANAZAWA and Akira SASAKI: External form of kamiokite crystal
 山重 隆・寺島 滋: 原子吸光分析による地質試料中のクロムの定量法の改善
 栗本史雄: 和歌山県美里地域の毛原層—三波川帯と秩父累帯の境界に関連して—
 Shunso ISHIHARA and Atsuyuki MIZUNO: Age of granitic cobbles from the Koshiki Knoll, sea-off southwestern Kyushu, Japan
 講演要旨(第174回研究発表会 特集 栗駒地熱地域の地熱に関する研究成果)
 地質調査所海外研究資料集 No. 31, 32, 33, 34, 35
 ・地質調査所月報 第37巻 第8号
 小村良二: 奈良県・福井県の瓦粘土の性質(3)
 —総括—
 寺岡易司・栗本史雄: 宇和島地域の四万十帯白亜系層序—大型化石と放散虫化石の層序的分布に関連して—
 地質調査所研究資料集 No. 20, 21, 22
 ・地質調査所月報 第37巻 第9号
 Kazuhiko KANO: Phosphatic nodules from the Early Miocene Kamenoo Formation near Nakoso, Jōban Coal Field, Japan
 柴田 賢: 基礎試錐「気仙沼沖」花崗岩コアの同位体年代
 田中信一・金谷 弘: 北上山地の岩石密度(そのI)
 阿部喜久男: 紀伊半島中南部温泉水中のフッ素含有量
 尾上 亨・坂本 亨: 茨城県東茨城郡桂村岩船の中新統から産出した植物化石
 講演要旨(第175回研究発表会 特集 筑波台地—利根川低地をめぐる環境地質)
 地質調査所海外研究資料集 No. 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44
 ・地質調査所月報 第37巻 第10号
 高橋裕平: 大竹—津田地域の広島花崗岩類の岩石記載
 今井 登: 誘導結合プラズマ発光分析法による岩石中の多元素同時定量
 杉原光彦・伊藤久男: 地質調査所における微小地震解析システム
 地質調査所研究資料集 No. 23, 24
 ・地質調査所月報 第37巻 第11号
 金井 豊: 茨城県茨城町におけるGS66試錐の化学組成(第2報)—粒度別及び分別溶解法によるフラクション別の化学組成
 杉山雄一・佃 栄吉・徳永重元: 京都府丹後半島地域の更新世後期から完新世の堆積物とその花粉分析
 講演要旨(第176回研究発表会) 豊羽鉱床周辺の地質構造と鉱脈の生成機構(渡辺 寧) 周水河インボリューションの形成について(予察)(宮田雄一郎) 神戸層群吉川累層上部にみられる地すべりについて(尾崎正紀) 濃美平野の地下地質(高田康秀) 福知山地域の地質—その1—(栗本史雄) 大分県姫島火山岩類について(巖谷敏光・倉沢 一) 本邦産碎屑堆積岩の力学的性質と圧密について(井波和夫)
 地質調査所研究資料集 No. 25, 26
 ・地質調査所月報 第37巻 第12号
 Shigeru TERASHIMA and Shunso ISHIHARA: Copper, lead, zinc, arsenic and sulfur of the Japanese granitoids(3): Green Tuff Belt of Northeast Japan and Outer Zone of Southwest Japan
 阿部喜久男・茂野 博: 日本のいくつかの地熱地域における熱水・温泉水のLi, Cs含有量とその地球化学的意味
 地質調査所研究資料集 No. 27, 28, 29
 索引
 ・地質調査所月報 第38巻 第1号
 Masakatsu SASADA, Saman CHATURONGKAWANICH, Praphat. SOPONPONGPIPAT, Ken OBARA and Masataka OCHI: Structural control of the hot springs of northern Thailand based on the analysis of Landsat imagery
 Kiyoo KAWADA, Masakatsu SASADA and Hiroshi KANAYA: Preliminary study on heat generation from the granitic rocks in northern Thailand
 Masakatsu SASADA, Benjavun RATANASTHIEN and Praphat, SOPONPONGPIPAT: New K-Ar ages from the Lampang basalt, northern Thailand
 Takashi HIRUKAWA, Wannapha JARACH, Weera TANGOOL and Isao TAKASHIMA: Preliminary

study on the geochemical characters of major geothermal fields in northern Thailand

Isao TAKASHIMA and Wannapha JARACH: Isotope geochemistry of six geothermal fields in northern Thailand

Saengathit CHUAVIROJ, Khanpong CHINGCHIT and Isao TAKASHIMA: Soil gas and alteration of the San Kamphaeng geothermal field, northern Thailand

Isao TAKASHIMA, Kiyoo KAWADA and Saman CHATURONGKAWANICH: Preliminary study on the thermoluminescence dating of altered rocks in the San Kamphaeng geothermal field, northern Thailand

・地質調査所月報 第38巻 第2号

小笠原正継: Rh 管球を用いたけい光X線分析による岩石中の微量成分の定量

栗本史雄: 美濃帯南西部からの三畳紀及びジュラ紀放射虫化石

柳沢幸夫・鈴木祐一郎: 常磐炭田漸新統白坂層の珪

藻及び珪質鞭毛藻化石

・地質調査所月報 第38巻 第3号

水谷伸治郎・磯見 博・塚本 斉: 岐阜県大野郡清見村の length-slow chalcedony について
大熊茂雄・中塚 正: 沖縄島西方海域における空中磁気異常の特徴について

鈴木泰輔・斎藤文紀: 霞ヶ浦湖底堆積物の重鉱物組成と供給源

・地質調査所月報 第38巻 第4号

水野清秀: 四国及び淡路島の中央構造線沿いに分布する鮮新・更新統について (予報)

田中信一・金谷 弘: 北上山地の岩石密度(その2)
松井和典: 長崎県西彼杵半島のかんらん石玄武岩の K-Ar 年代

金谷 弘: 岩石帯磁率について 2, 3 の問題—測定における問題点と表示方法

笹田政克・服部 仁・金谷 弘・豊 遙秋・坂巻幸雄: 筑波山斑れい岩と周辺の花崗岩類との関係についての新発見—霞ヶ浦用水筑波1号トンネルの地質から—

リチウム・マンガンの供給と展望

1) リチウムは 応用範囲がきわめて広い。 そのもっとも重要なものは航空・宇宙空間関係の工業に不可欠なリチウム-アルミニウム合金の原料ということであろう。

1985年現在の世界のリチウムの金属換算埋蔵量 3,600 t 年間需要量 6,900 t からすると リチウムは 1,000 年以上供給を保障できるだけの量をもっている。 世界のリチウム金属の生産量が 9,800 t であるのに対し 年間需要量は 6,900 t に過ぎずこの供給過剰率は 40% に達している。 1975 年から 1985 年に至る 10 年間のリチウムの確定・推定鉱量増加率は 300% 消費量増加率は 57% リチウム製品の価格上昇率はわずか 50% である。 この数値からすると 世界のリチウムの埋蔵量が需要量を遙かに越えていることは明瞭である。 この期間のリチウムの埋蔵量増加率はリチウム金属の生産量と消費量の増加率よりも遙かに高く リチウム金属消費量の増加率もリチウムの市場価格の上昇率より高い。 今後 4 年ないし 5 年以内にリチウムの需要増加率は 7% に達し 西暦 2000 年まで 6% を維持するだろう。 西暦 2000 年になれば リチウムの年間需要は 23,000 t に達しそうである (中国地質報 1985. 11. 3 の呉振宇の記事から要約)。

2) マンガン鉱の国際貿易は比較的活発で 1983 年の世界の総輸出量は 769 万 t に達したが これは世界総生産量の 34.5% に相当する。 主な輸出国の輸出量は 南ア共和国が 28.2% ガボンが 25.1% ソ連が 15.6% を占めている。 アメリカ 日本 ヨーロッパ共同体諸国が必要としているマンガンは 主として輸入に依存している。 1960 年から 1983 年に至る間のマンガンの貿易の趨勢はオーストラリア ガボン 南ア共和国などの輸出増が大で ブラジル インド ガーナなどの輸出量の減少がいちじるしい。

国際マーケットでのマンガン鉱の価格変動は 1960 年代初頭から 1970 年代初めにかけては基本的に下降傾向を示し 1970 年代初頭にどん底 それから次第に上昇して 1981 年にピークとなり その後は再び下降しつつある。

販売価格を比べると 1983 年の価格は 1960 年よりも 26.4% 高い。 国際通貨の膨張という要素を除き 1981 年のアメリカドル換算値を規準にすれば 1982 年の実際価格は 1960 年よりも 34.8% 下がっている。 したがって 国際マーケットにおけるマンガンの価格は表面的には上がっているが 実際は下がっているのである (中国地質報 1986. 1. 24 の倪良山の記事から要約)。(地質相談所)